

医療系大学生における入学時の意識調査 —学内・学外でのマナー、身だしなみについて—

滝音美里 齋藤佐和 木下修 仲本なつ恵 内山千鶴子
(Misato TAKIOTO Sawa SAITO Osamu KINOSHITA
Natsue NAKAMOTO Chizuko UCHIYAMA)

【要約】

学習態度・身だしなみ・マナー等に関する新入生の意識を明らかにし、新入生の実態に沿ったマナー等の教育の再検討および学年進行に伴う変化検討の基礎資料とすることを目的として、平成25年度保健医療学部入学生211名に対し、入学時オリエンテーションの際に授業態度、身だしなみ、公共交通機関の利用、対人関係への意識について無記名のアンケート調査を実施した。その結果、大学での授業で気をつけたい項目としては「遅刻」「居眠り」が上位を占めていた。身だしなみでは、項目による男女差が大きかったが、大学生らしく自由になりたい意識が見られる一方、「今までと変わらない」との回答も特に男性で多かった。また「大学生らしい身だしなみ」、「医療系大学生らしい身だしなみ」に心がけるという回答が合わせて7割近くあり、病院実習での身だしなみも「普段から気をつける」または「実習に行く時は気をつける」で占められており、医療従事者としての意識が感じられた。公共交通機関の利用については、これまで経験してきたものが多いが、今後は「大学生らしくする」と「医療系大学生らしくする」との回答が多かった。「人との関わりや対応において気を付けようと思うこと」が「ある」と回答したものが特に女性に多く、内容としては「相手を思いやる、相手の立場になる」、「自分から積極的に話しかける」、「人の話を聞く」などが上位を占めた。身だしなみ以外にも男女差が見られ、マナー意識は女性の方がやや高い傾向が示唆された。

キーワード：接遇、マナー、初年次教育

1. はじめに

高等学校（以下、高校）では制服があり、髪型なども校則で規定されていることがあるが、大学では服装は自由で、髪型などの規定はほとんどない。しかし、医療系大学生には病院・施設等の臨床実習があり、適切な身だしなみやマナーは必須となる。また資格取得のため4年次に国家試験を受験する学部であるため、1年次から授業への真摯な取り組みが求められている。

保健医療学部3学科では、本研究グループで作成した学習態度・身だしなみ・マナーに関する視聴覚教材(DVD)を利用して、平成22年度新入生オリエンテー

ションから初年次教育の一環として研修を実施してきた。研修はDVD視聴とグループディスカッションによって構成され、研修後にアンケート調査を実施し、学生のDVD教材内容の受け止め方について検討してきた。全体として参考になったとする意見が多く、特に身だしなみに関しては高い興味があるなど、一定の成果を確認してきた^{1) 2)}。

しかしDVD教材は学生の意識を反映して作成したものではないため、今後の改訂を図る上で入学時の意識を把握しておくことが必要と考え、改めて態度・マナー等の研修に先立って調査を行うこととした。

2. 目的

本研究は、学習態度・身だしなみ・マナー等に関する新入生の意識を明らかにして、新入生の実態に沿ったマナー等の教育の再検討や、学年進行に伴う変化の検討の基礎資料とすることを目的とする。

3. 方法

対象者：平成25年度目白大学保健医療学部入学生211名（理学療法学科99名、作業療法学科66名、言語聴覚学科46名）。

実施方法：各学科の入学時オリエンテーションの際に無記名でアンケートを実施。

調査内容：表1に示すとおり、質問項目は授業態度について2項目、身だしなみについて3項目、公共交通機関の利用について2項目、対人関係の意識について1項目の計8項目。

4. 結果

対象者211名中208名が回答し、回答率は98.6%であった。結果を表2～9に示す。回答者属性のうち男女差について分析し、回答率に10%以上の差のある項目について、 χ^2 検定により有意差を検討した。

(1) 「学校での授業でしたことがあること」

最も多かった回答が「あくび」で88.5%であった。次いで「居眠り」82.7%、「私語」81.3%で、いずれも高率であった。後方に座る、遅刻、携帯電話使用は4分の1強が高校時代にも経験していた。10%以上の男女差のあった項目は4項目でいずれも男性での回答率が高く、このうち2項目において有意差が見られた。

(2) 「大学の授業ではしないように気を付けること」

「居眠り」77.9%、「遅刻」76.9%を大学では自製の対象としていた。「私語」は48.0%であり、約半数が挙げた。携帯電話使用の自制は4分の1の24.5%だった。10%以上の男女差のあった項目は2項目で、私語は女性の方が、携帯電話使用は男性の方が有意に回答率が高かった。

(3) 「大学生になって髪型・服装などしたいこと」

したい項目として多かったのが「茶髪にする」34.1%、「パーマをかける」23.6%、「アクセサリーをつける」19.7%、「ピアスをつける」18.3%であったが、「今

までと変わらない」という回答も33.7%で3分の1を占めている。10%以上の男女差のあった項目は5項目で、装身に関わる4項目で女性が、男性は変化無しにおいて有意に回答率が高かった。

(4) 「身だしなみについて、今までと比べて大学生ではどのようになると思いますか」(単独回答)

最も多かったのが「大学生らしい身だしなみ」で39.9%、次いで「医療系大学生らしい身だしなみ」27.9%、「自由な服装ができる」15.4%の順となった。医療系大学生らしい身だしなみに関しては、回答率は女性の方が高い傾向を示した。

(5) 「病院実習における身だしなみについて、どのように思いますか」

最も多かったのが「普段から気をつける」で68.3%、次いで「実習に行く時は気をつける」28.8%で、両者で大半を占めた。

(6) 「公共交通機関利用時にしたことがあること」

最も多かったのが「飲食」で48.6%、次いで「優先席に座る」31.7%、携帯電話使用20.7%、大声の私語15.4%であったが、21.2%はそれらを「したことがない」という回答をしていた。携帯通話や優先席利用は男性において回答率が10%以上高く、有意差が見られた。反対に女性は「したことがない」で回答率が高い傾向を示した。

(7) 「大学生になって公共交通機関をどのように利用しますか」

最も多かったのが「大学生らしくする」で43.8%、次いで「医療系大学生らしくする」40.4%であった。14.4%は「今までと変わらない」と答えた。

(8) 「今後、人との関わりや対応において自分なりに気を付けようと思うことはありますか」

この質問では「ある」74.5%、「ない」21.6%であった。女性の方が「ある」との回答率が有意に高かった。今後、気を付ける内容についての自由記載では、「相手を思いやる、相手の立場になる」27.2%、「自分から積極的に話しかける」16.2%、「人の話を聞く」12.5%などが上位を占めた。

表1 アンケート項目

問1. 学校での授業でしたことがあることを以下の項目から選んでください（複数回答可） 私語／居眠り／あくび／遅刻／飲食／化粧／前の座席が空いていても後ろの座席に座る／携帯電話を使用する／上記のことはしたことがない
問2. 大学の授業では特にしないように気を付けることは何だと思えますか（3つまで回答可） 私語／居眠り／あくび／遅刻／飲食／化粧／前の座席が空いていても後ろの座席に座る／携帯電話を使用する
問3. 大学生になって髪型・服装などしたいことを以下の項目から選んでください（複数回答可） 茶髪にする／パーマをかける／ピアスを開ける／ネイルアートをやる／アクセサリーを付ける／香水をつける／ミニスカートを履く／腰パンを履く／今までと変わらない／わからない
問4. 身だしなみについて、今までと比べて大学生ではどのようになると思えますか（1つのみ回答） 自由な服装が出来る／大学生らしい身だしなみが必要／医療系大学生らしい身だしなみが必要／今までと変わらない／わからない
問5. 病院実習における身だしなみについて、どのように思えますか（1つのみ回答） 普段から身だしなみに気を付ける／病院実習に行くときは身だしなみに気を付ける／病院実習に行くときも自由な服装で良い／わからない
問6. 公共交通機関の利用時にしたことがあることを以下の項目から選んでください（複数回答可） 大声で私語／携帯で通話する／優先席に座る／割り込み乗車する／高齢者などに気付いても席を譲らない／飲食／化粧／上記のことはしたことがない
問7. 大学生になって公共交通機関をどのように利用しますか（1つのみ回答） 大学生らしいマナーを身につける／医療系大学生らしいマナーを身につける／今までと変わらない／わからない
問8. 今後、人との関わりや対応において自分なりに気を付けようと思うことはありますか ない／ある→その内容（自由記載）

表2 アンケート結果1：学校での授業でしたことがあること（複数回答）

	全体 (n=208)	男性 (n=88)		女性 (n=110)	*性別無記入 (n=10)
私語	169名 (81.3%)	77名 (87.5%)	>*	84名 (76.4%)	8名
居眠り	172名 (82.7%)				
あくび	184名 (88.5%)				
遅刻	56名 (26.9%)	28名 (31.8%)	>	22名 (20%)	6名
飲食	20名 (9.6%)	13名 (14.8%)	>*	5名 (4.5%)	2名
化粧	3名 (1.4%)				
後ろの座席に座る	61名 (29.3%)				
携帯電話を使用する	53名 (25.5%)	28名 (31.8%)	>	23名 (21%)	2名
したことがない	3名 (1.4%)				

男女差が10%以上ある項目を太字で示した。*P<0.05 **P<0.01 (0.05<P<0.10は無印とした)

表3 アンケート結果2：大学の授業では特にしないように気を付けること（3つまで回答可）

	全体 (n=208)	男性 (n=88)		女性 (n=110)	*無記入 (n=10)
私語	100名 (48.1%)	36名 (40.9%)	<	60名 (54.5%)	4名
居眠り	162名 (77.9%)				
あくび	19名 (9.1%)				
遅刻	160名 (76.9%)				
飲食	33名 (15.9%)				
化粧	10名 (4.8%)				
後ろの座席に座る	25名 (12.0%)				
携帯電話を使用する	51名 (24.5%)	29名 (33.0%)	>*	21名 (19.1%)	1名

表4 アンケート結果3：大学生になって髪型・服装などしたいこと（複数回答）

	全体 (n=208)	男性 (n=88)		女性 (n=110)	*無記入 (n=10)
茶髪にする	71名 (34.1%)				
パーマをかける	49名 (23.6%)	13名 (14.8%)	<*	33名 (30.0%)	3名
ピアスを開ける	38名 (18.3%)	7名 (8.0%)	<**	30名 (27.3%)	1名
ネイルアートをする	18名 (8.7%)	1名 (1.1%)	<**	16名 (14.5%)	1名
アクセサリを付ける	41名 (19.7%)	8名 (9.1%)	<**	31名 (28.2%)	2名
香水をつける	8名 (3.8%)				
ミニスカートを履く	2名 (1.0%)				
腰パンを履く	1名 (0.5%)				
今までと変わらない	70名 (33.7%)	41名 (46.6%)	>**	26名 (23.6%)	3名
わからない	19名 (9.1%)				

表5 アンケート結果4：身だしなみについて、今までと比べて大学生ではどのようなになるか

	全体 (n=208)	男性 (n=88)		女性 (n=110)	*無記入 (n=10)
自由な服装が出来る	32名 (15.4%)				
大学生らしくする	83名 (39.9%)				
医療系大学生らしくする	58名 (27.9%)	20名 (22.7%)	<	37名 (33.6%)	1名
今までと変わらない	23名 (11.1%)				
わからない	8名 (3.8%)				
無回答	4名 (1.9%)				

表6 アンケート結果5：病院実習における身だしなみについてどのように思うか

	全体 (n=208)	男性 (n=88)		女性 (n=110)	*無記入 (n=10)
普段から気を付ける	142名 (68.3%)				
病院実習に行くときは気を付ける	60名 (28.8%)	21名 (23.9%)		38名 (34.5%)	1名
病院実習に行くときも自由な服装	1名 (0.5%)				
わからない	2名 (1.0%)				
無回答	3名 (1.4%)				

表7 アンケート結果6：公共交通機関の利用時にしたことがあること（複数回答）

	全体 (n=208)	男性 (n=88)		女性 (n=110)	*無記入 (n=10)
大声で私語	32名 (15.4%)				
携帯で通話する	43名 (20.7%)	24名 (27.3%)	>*	17名 (15.5%)	2名
優先席に座る	66名 (31.7%)	35名 (39.8%)	>*	29名 (26.4%)	2名
割り込み乗車する	6名 (2.9%)				
高齢者に席を譲らない	7名 (3.4%)				
飲食	101名 (48.6%)				
化粧	4名 (1.9%)				
したことがない	44名 (21.2%)	14名 (15.9%)	<	30名 (27.3%)	

表8 アンケート結果7：大学生になって公共交通機関をどのように利用するか

	全体 (n=208)	男性 (n=88)		女性 (n=110)	*無記入 (n=10)
大学生らしいマナー	91名 (43.8%)	32名 (36.4%)		52名 (47.3%)	7名
医療系大学生らしいマナー	84名 (40.4%)				
今までと変わらない	30名 (14.4%)				
わからない	0名 (0%)				
無回答	3名 (1.4%)				

表9 アンケート結果8：今後、人との関わりや対応において自分なりに気を付けようと思うこと

	全体 (n=208)	男性 (n=88)	女性 (n=110)	*無記入 (n=10)
ない	45名 (21.6%)	29名 (33.0%) >**	13名 (11.8%)	3名
ある	155名 (74.5%)	56名 (63.6%) <**	94名 (85.5%)	5名
無回答	8名 (3.8%)			

5. 考察

本研究では、授業態度、身だしなみ、マナー等に関する新入生の意識調査を入学直後のオリエンテーションにおいて実施した。高校時代と対比させながら大学での学習態度や身だしなみやマナーへ意識を問う計8項目への回答を求めた。また、男女差についても検討した。

(1) 授業態度について

問1では過去の経験の有無、問2では今後の心構えについて質問した。両質問ともに回答率が高かったのは「居眠り」、「私語」であり、過去の経験を自覚し、今後気を付ける意識が高いと考えられる。「あくび」は1割程度であったが生理現象なので、マナー指導の対象になるだろう。「居眠り」については、教員も授業の展開において適宜休憩を入れる、学生が能動的に参加できる場を設けるなどの眠気を抑えるような授業方法の工夫をする必要がある。

「私語」に関して澤田ら³⁾は看護短期大学1年次生の授業と無関係の私語の頻度を調査し、入学2カ月後と比較して1年次授業終了後に有意に低くなり、授業の難易度や関心が影響を及ぼすと報告している。本研究では、私語をしたことがあると回答したのは81.3%、私語をしないよう気を付けると回答したのは48.0%だった。高校では多くが経験している項目であるが、大学では気を付けようという意識はあまり高くなかったと言える。大学での学習進行に伴って、私語に対する意識や実態も変化するのか、澤田ら³⁾の研究を参考に今後追跡する必要がある。

「遅刻」に関しては、遅刻をしたことがあると回答したのは26.9%、大学でも遅刻をしないように気を付けると回答したのは76.9%で、遅刻はしないようにと考えている学生が多いことが分かった。奥ら⁴⁾は理学療法学科2年次生におけるアンケート調査により、医療専門職として好ましくない行動として最も多かったのは「無断遅刻・無断欠席」および「時間の管理ができない」であり、76.9%の学生が回答したと報告してい

る。本研究でも同様の回答率であり、今回の入学生も遅刻を好ましくないとする意識は高いと考える。

携帯電話使用は高校での経験と大学での自制意識はほぼ同率であった。経験と意見の違いを留保しなければいけないが、高校での経験者が大学では自制したいと考えていると期待したい結果である。携帯電話は連絡用ツールとしてますます利用度は高まると思われ、書き方のマナーも含めた指導を導入する必要があり、本研究グループでも教材作成に着手している²⁾。

飲食は経験率より自制したいとする割合が上がり、後部座席着席は経験率より自制の割合が下がっていた。相対的に飲食を止めようとする意識は強くなり、席への自由度は確保したいと考えていると言えよう。

男女差では、女性の方が高校での経験やこれからの大学生活に対して、マナーという点での意識はやや高いという傾向を指摘できると考える。

(2) 身だしなみについて

身だしなみについて問3では大学生になってほしいこと、問4では大学生としての身だしなみ、問5では病院実習での身だしなみについて質問した。問3では「茶髪にする」34.1%、「今までと変わらない」33.7%が多くほぼ同数であった。村田ら⁵⁾は理学療法学科3年次生および患者におけるアンケート調査により、実習生の身だしなみで肯定的な回答が過半数を超えたのが茶髪、ピアス、化粧であり、特に否定的な回答が多かったのは伸びた爪、無精ひげ、香水であったと報告している。本研究でも茶髪に対しては最も肯定的であり、大学生にとって茶髪は日常的な要素になっていると考えられる。また、「今までと変わらない」との回答が男性が46.6%、女性は23.6%であり、特に男性において大学生となったからといって特に髪型や服装等を変化させるつもりがないことが分かった。女性の方がパーマや装身具に関わる項目での回答率が有意に高く、大学生になって高校生とは違う変化を求めていることが分かった。問4では「大学生らしい身だしなみ」および「医療系大学生らしい身だしなみ」を合わせて

67.8%を占め、「自由な服装ができる」15.4%を大きく上まっていた。入学時から身だしなみには気を付けるべきであるとの意識は高いと言える。医療系大学生としての身だしなみの内容はこれから更に学んでいくべきものであろう。病院実習での身だしなみは「普段から気をつける」および「実習に行く時は気をつける」で97.1%となり、入学時においても医療系従事者としての意識が高いことが示された。また、ここでも女性の方が男性よりも気をつけたいとする意識が高く、身だしなみ全般にわたり、女性の方が意識的であると考えられる。

(3) 公共交通機関内のマナーについて

公共交通機関の利用に関して問6でマナー違反と考えられる行為の経験の有無、問7では今後の心構えについて質問した。問6では「飲食」が48.6%となり、日常的に行われていることが示された。ただし飲料やガム等の飲食も含まれていると思われ、内容についての確認が必要であった。また、「優先席に座る」は31.7%となったが、「高齢者に気付いても席を譲らない」はごく少数であったことから一定の配慮をして優先席を使用していると考えられる。問7では「大学生らしくする」および「医療系大学生らしくする」で84.1%を占め、公共交通機関利用時のマナーの意識は一般に高いと考えられる。

(4) 人との関わりについて

最後に「人との関わりや対応において自分なりに気を付けようと思うこと」について「ある」が74.5%、「ない」21.6%となり、男女差は有意で女性の方が入学時であっても対人関係についての意識が高いことが示された。今後、気を付ける内容についての自由記載では、「相手を思いやる、相手の立場になる」、「自分から積極的に話しかける」、「人の話を聞く」であり、他者との会話の場面で改善していきたいとする内容が多く挙げられ、対人接遇職としての意識が示されていた。

6. おわりに

態度や身だしなみについては、大学生になると成人するために高校生と比較し、自己責任を問われることが多い。このため、医療系大学では、学生には医療従事者としての自覚を早期に芽生えさせ、適切に判断できる能力を養うような指導を実施していくことが重要である。本研究では入学時の意識調査に止まったが、今後は態度・マナー研修後の意識の変化を検討し、さらに学年進行にともない病院・施設等での臨床実習後の意識の変化も検討して、入学時から臨床実習まで継続する医療人としての態度・マナー教育の系統化を図っていきたい。その際、男女差のある項目について留意して考える必要があることが示唆された。

【文献】

- 1) 内山千鶴子, 仲本なつ恵, 齋藤佐和, 滝音美里, 木下修 (2011): 医療系学部における態度・マナー教育—第3報—映像による初年次教育の効果の検討—, リハビリテーション教育研究 17, 42-43
- 2) 同上 (2012): 同 第4報, リハビリテーション教育研究 18, 31-32
- 3) 澤田和美, 戸塚智美, 鈴木 恵, 椎野雅代 (2013): 看護短期大学1年次生の授業中の私語の頻度と規範意識の変化と関連要因—入学後と1年次後期授業終了後との比較—, 日本看護学会論文集看護管理 43, 63-66
- 4) 奥 壽郎, 高田治実, 江口英範, 坂本 雄, 伊藤みどり, 塩田紀章, 榎本康子, 神田太郎, 石垣栄司, 内田 学, 齋藤 弘, 渡邊敦由, 吉葉則和 (2008): 臨床実習教育における学生の好ましい行動と好ましくない行動—学生に対するアンケート調査—, 臨床福祉ジャーナル 5, 52-55
- 5) 村田 伸, 児玉隆之, 平田信広, 大穂ちづる, 吉村 修, 福田ひろか, 田中真一, 熊丸真理, 田中 剛, 鳥巢桂香, 井上博子 (1999): 臨床実習生の身だしなみに関する意識調査, 理学療法学 26, 123

(2013年10月17日受付、2013年12月2日受理)